学校だより　令和3年度　12月号

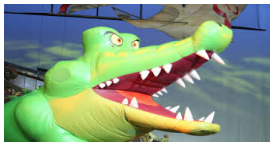
なつのくも

第147号（R3．12．1）　練馬区立光が丘夏の雲小学校

本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

できる悦びを知る者は　「できぬ」「やらぬ」と言わぬなり

校長　牧 野 光 洋



先月行われた学芸会、観る者、演じる者すべてに「感動」という贈り物を与えていただきました。「好きこそものの上手なれ」とか「好きは上手のもと」と申します。何の道でも、それを好きになることが上達の早道でしょう。さらに、その道を楽しめるようになれば、これは本物です。物事にどの程度習熟しているかを知る目安、物事を習う心構えにもなります。学習や行事の取り組みに例えると、練習したり学んだりして知っている、できる人と、その学習や行事に興味があって（好きで）知っている、できる人とでは、後者の方がより定着度に差が生じて参ります。興味をもって学び始めた人と、長年にわたって楽しんでいる人とでは、楽しんでいる人の方がよく身に付いています。

人間にはすべて、向上心という心がどこかに存在しています。昨日やった勉強や仕事よりも今日の方が上手にできた。このときの悦びと充実感が心に溢れて参ります。昨日よりも今日、今日よりも明日と少しでも進歩させて行く。そこに悦びが生まれ、興味が湧いてきます。これは他人との比較ではありません。一人一人の心です。昨日より、ほんの少しでよいから工夫してみる。一部でもいいから真心を込めてみることです。その時に感じられる「この前よりも、うまくできたな。」「今回は、真心が込められたな。」という成就感、満足感こそが生きがいの出発点でもあります。運動会、学芸会と総勢 500 名を超える成就感に満ち満ちた力が、私たちに「感動」をもたらしていただいたと感謝です。「できない」とか「やりたくない」と言う人は「できる悦び」＝「行ずる楽しさ」を知らない集団とも言えます。

子供たちの教育は、「できる悦び」を教える教育でなくてはなりません。それには実際に「行ずる楽しさ」を味わいながら働いている私たち大人の後ろ姿を見せることが一番です。何事にも笑みを浮かべ、自分の行動を一日一回は褒めることから、その後ろ姿が素敵に輝き始めるかも知れません。

早、令和３年丑年が幕を閉じようとしております。年末年始、さらにご家族で過ごす時間が多くなると思います。新年に備え、素敵な後ろ姿をお互いに見せ合う時間を作っていただき。素晴らしい令和４年寅年をお迎えください。

この一年皆様のご協力を賜り、感謝の一言でございます。来年も児童の健やかな成長のためにご尽力を賜りますことをお願い申し上げます。